

第1学年 音楽科学習指導案

ろ組 男子 18 名 女子 16 名 計 34 名

指導者 濱田 宏明

1 題材 りずむをかんじて

教材 なまえあそび

「じゃんけんぽん」

芙龍明子 作詞 橋本祥路 作曲

「ぶんぶんぶん」

村野四郎 作詞 ボヘミア民謡 (本時主教材)

「かたつむり」

文部省唱歌

◎「しろくまのじえんか」

平井多美子 作詞 ケン ウォール 作曲

「とんくるりんぱんくるりん」

滝紀子 作詞 川崎祥悦 作曲

「うみ」

文部省唱歌 林柳波 作詞 井上武士 作曲

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、生活経験の中で、体を動かしながら歌ったり簡単なリズム楽器を使って演奏したりする活動を通して、リズムを感じて歌うことや、歌に合わせて体を動かすことの楽しさを味わってきている。さらに子どもたちは、友だちといっしょに合わせてたり、歌詞の情景に合わせて動きをつけたりしながら歌おうとする欲求が高まってきている。

そこで、ここでは、歌に合わせてリズム打ちをしたり、体の動きを工夫しながら表現したりする活動を通して、拍の流れに合わせてリズムフレーズを感じながら表現・鑑賞する能力を育てるとともに、友達とリズムを合わせることに興味をもち、リズムを感じ取りながら表現したり鑑賞したりするための工夫をする能力を高めることをねらいとして、本題材「りずむをかんじて」を設定した。

ここでの学習は、2拍子や3拍子の違いを感じ取って、歌ったり歌に合わせてリズム伴奏をしたりする能力を育てる題材「2びょうしと3びょうし」の学習へと発展していくこととなる。

(2) 指導の基本的な立場

拍の流れに合わせてリズムフレーズを表現したり鑑賞したり能力を高めるには、教師や友達の演奏をよく聴いて、音楽を形づくっている要素に気を付けながら、繰り返しリズム唱やリズム打ちに親しむことが効果的である。特にこの期の子どもたちには、範奏によく耳を傾け、拍の流れを手や足、体全体で感じ取らせながら、音色感やフレーズ感、リズム感を育てることが大切である。

具体的には、まず、「なまえあそび」の活動や「じゃんけんぽん」を取り上げる。これらの活動や曲は、〇〇〇・のリズムフレーズを基にリズム模倣遊び等を十分に経験することができる。そこで、ここでは、リズム模倣遊びや〇〇〇・のリズムでジェスチャーを入れて遊んだりしていく活動を通して、拍の流れを感じ取りながらリズムを演奏する楽しさを味わえるようにするとともに、ほかの言葉や歌でも活用できそうなことに気付かせる。

さらに、「ぶんぶんぶん」や「かたつむり」を取り上げる。これらの楽曲は、8分音符や符点などの同じようなリズムが繰り返され、強拍を感じ取りやすい楽曲であるとともに、身近な生き物を取り上げているため情景を想像しやすい。そこで、ここでは、リズム譜によってリズムを視覚的にとらえ、手拍子や打楽器でのリズム打ちや動物を想像して歌う活動を通して、情景を思い浮かべながらリズムよく歌う歌い方を工夫する楽しさを味わえるようにする。また、音楽設計図を作成することで、課題解決への到達度を振り返りながら活動するよさを実感させる。

次に、「しろくまのじえんか」を取り上げる。この楽曲は、強拍と弱拍が明確で、拍の流れを感じ取りやすい楽曲である。そこで、〇・〇・〇〇〇・のリズムに合わせて友だちとジェンカの手拍子を踏みながら踊ることで、拍の流れやリズムを体全体で感じ取る楽しさを味わえるようにする。

最後に、「とんくるりんぱんくるりん」を取り上げる。この楽曲は、強拍に「とん」や「ぱん」という歌詞がくるため、強拍を感じ取りやすい。続けて「うみ」を取り上げる。この楽曲は、1拍

目に分割のリズムがくるリズムパターンの繰り返しを感じ取りやすい。そこで、ここでは、絵譜の提示や言葉によるリズムの表現とともに、体を動かしながら強拍を感じ取る活動やリズム打ちの活動を通して、様々なリズムパターンや3拍子の感じを感じ取る楽しさを味わえるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは、リズムを中心とした音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りながら目指す表現に向かって表現したり鑑賞したりすることへの意欲を高め（計画性の向上）、友だちと体を動かしながら音楽のよさや面白さ、美しさを味わわせることができる。（協調性の向上）また、課題解決への到達度を振り返りながら（責任感の高揚）、楽しく音楽とかわかっていこうとする態度を身に付けることができる。（自己肯定感の醸成）

(3) 子どもの実態（調査対象 1年ろ組 男子18名 女子16名 計34名）

本学級の子どもたちの実態は次の通りであった。

①	音楽に合わせて手合わせ遊びをしたり、じゃんけん遊びをしたりするのは好きですか。
	はい(29) いいえ(5)
②	その理由を答えてください。(複数回答)
	【「はい」の理由】 ・とにかく楽しい(25) ・友だちとやるのが楽しい(20) ・体を動かしたりじゃんけんをしたりするのが好き(10) 【「いいえ」の理由】 ・歌をうまく歌えない(4) ・体を動かしたりするのが苦手(2)
③	みんなで歌ったり音楽を聴いたりして遊ぶ時は、どんなことに気を付けていますか。(複数回答)
	・みんなとリズムが合うようにしている(12) ・先生や友達の動きをまねする(8) ・音楽と動きが合うようにしている(5) ・歌詞に合わせて(2) ・無回答(8)
④	先生が手拍子をしたあとに、まねをして手拍子をしましょう。
	・できる(30) ・できない(4)
⑤	「さんぽ」に合わせて○・○・○○○・のリズムを手拍子しましょう。
	・拍の流れに合わせてできる(31) ・拍の流れに合わせてできない(3)

①②から、音楽に合わせて体を動かしたり、遊んだりすることの楽しさを多くの子どもが感じている。一方「好きではない」と答えた子どもたちは、歌をうまく歌えなかったり、体を動かすことを苦手に感じたりしている。歌唱活動そのものに不安を感じていたり、歌うことと体を動かすことを同時に行うことが技能的に難しかったりするところが要因であると考えられる。

また、③から、リズムを基に活動しようとする子どもたちや、友だちや先生の動きをまねて体を動かす子どもが多い。しかし、一方で特に気をつけていなかったり、答えることができない子どももいる。1年生という発達段階から、体を動かして感じ取ったことと音楽を形づくっている要素との関連に気付くことができず無意識に体を動かしていることが要因であると考えられる。

④⑤から、教師のまねをして手拍子をしたり、音楽に合わせてリズム打ちすることはほとんどの子どもができています。できていない子どもについては、リズムが長くなると覚えられなかったり、拍の流れを感じられていないことが要因であると考えられる。

(4) 指導上の留意点

以上のようなことをふまえて、指導に当たっては次のようなことに留意したい。

ア 課題把握・課題追求Ⅰの過程では、遊び歌のよさや面白さを実感し、進んで活動に取り組むことができるようにしていく。(参加) そのために、今までの生活経験を想起させたり、実際に遊んでいる様子を提示したり、どのような時に生かすことができるかを話し合う場を設定する。

イ 課題追求Ⅱ・Ⅲの過程では、子どもたちが、リズムを中心とした音楽を形づくっている要素とそこから醸し出されるよさや面白さ、美しさを感じ取って表現したり鑑賞したりすることができるように(多面・総合)、絵譜や言葉で示したリズムフレーズを視覚的にとらえながら活動したり、音楽設計図を基に、表現の意図や思いを話し合いながら表現・鑑賞する場を設定する。

ウ 課題追求Ⅳの過程では、子どもたちが学習してきたことを生かして、拍の流れを感じ取りながらリズムよく表現したり鑑賞したりすることができるように(つながり)、自分たちで合うリズムをつなげさせたり、体を動かして拍の流れを感じ取る活動を取り入れていく。

3 目 標

- (1) 友達とリズムを合わせることに関心をもち、リズムが合っているか振り返りながら、進んで活動に取り組むことができる。
- (2) リズムを感じ取りながら表現したり鑑賞したりするための工夫をすることができる。
- (3) 拍の流れを感じてリズムフレーズを表現したり鑑賞したりすることができる。

4 指導計画（全9時間）

過 程	時	教材	主 な 学 習 活 動	教師の働きかけ
課題把握			なまえあそびをしよう。	○ 「○○○・」にリズムを当てはめやすいように、2～4文字の果物等を例示する。
課題追求Ⅰ	1	なまえあそび	○ りずむのまねっこあそびをする。	○ 歌詞と動きを関連付けながら活動できるように模倣をする活動を取り入れる。
	2	なまえあそび	りずむりれえはたのしいな。	○ 動きを入れる箇所のリズムを視覚的にとらえられるように（多面・総合）、絵譜を掲示し歌詞と対応させる。
	3	じゃんけんぼん	じゃんけんをしながらうたおう。	○ 拍の流れに合わせて踊るよさや面白さに気付かせるために（目的整合）、個人でじっくりと取り組んだり人数を徐々に増やしたり、動きに変化をもたせて鑑賞させる。
			○ 主旋律の聴唱をする。	○ 動物のまねでイメージを膨らませ（未来予測）、表現の工夫をする楽しさを味わうことができるように（参加）、写真や映像を提示する。
			○ 歌詞の内容と体を動かす活動とを結び付けてじゃんけん遊びをする。	○ 音楽設計図を作成させ（未来予測）、自分の思いや意図と到達度を比較しながら課題解決していく。
			たん・たんのりずむはわかったぞ。	○ 分割リズムが感得できるように視覚的にとらえやすい絵譜を準備する。また、付点のリズムや分割のリズムの違いを感じられるように、「じゃんけんぼん」で使用した絵譜と分割されている絵譜とを比べるようにする。
課題追求Ⅱ	4	ぶんぶんぶん	○ これまでの遊び歌を生かす場面について話合う。	○ とともに遊び歌の楽しさを味わい（コミュニケーション）、生活に生かせるように（つながり）、どのような場面で生かせるか話し合う場を設定する。
			はちさんのことをかんがえながらうたったり てをたたいたりしよう。	○ リズムに注目して歌うことができるように、「ここでは、どんなリズムが出てきているかな。」と発問する。
			○ 主旋律の聴唱をする。	○ 繰り返すリズムに気付き、ちがいが分かるように、題材内で使用した絵譜を提示し、違いについて話し合わせるために（協力）振り返る場を設定する。
			○ リズム譜を見ながら手拍子でリズム打ちをする。	○ 3拍子の感じを感じ取ることができるように、リズムフレーズの拍数を2拍子のものと比べられるようにする。
			○ イメージに合う歌い方を工夫する。	
	5	かたつむり	かたつむりさんのことをかんがえながらうたおう。	
			○ リズム譜を見ながらリズム唱をしたり、手拍子を打ったりする。	
			「たた」と「たた」のりずむのちがいをたくさんみつけたよ。	
課題追求Ⅲ	6	しろくまのじえんか	たのしいじえんかのおどりをかんがえながらきこう。	
			○ 「しろくまのじえんか」を聴いてリズムの繰り返しについて話し合う。	
	7		○ ペアやグループで体を動かし、拍の流れを感じながら鑑賞する。	
課題追求Ⅳ	8	どんくるりん	りずむにのってとんくるりんぱんくるりんをうたおう。	
			○ 繰り返されるリズムのリズム打ちをしたり打楽器で演奏したりする。	
			ゆったりしたかんじがでるようにうみをうたおう。	
			○ 海に関する提示資料を見ながらイメージを膨らませる。	
	9		○ 繰り返されるリズムフレーズをリズム打ちする。	
まとめ			りずむがちがうのが、はっきりとわかるようになったよ。	

5 本 時 (4/9)

(1) 目 標

リズムに気をつけながら歌うことに関心をもち、はちがとぶ様子を思い浮かべて歌い方を工夫し、拍の流れを感じながらリズムよく表現することができる。

(2) 本時の展開に当たって

子どもたちに拍の流れを感じながら8分音符の分割のリズムを感じて表現させるために（目的整合）、前時までのリズムパターンを絵譜や歌詞カードを使って振り返る活動を取り入れる。また、歌詞の内容やリズムからはちの動きを考え、表現の工夫をさせるために（多面・総合）、楽曲のもつ楽しい曲の気分とうれしそうにとぶはちの様子を関係付けられる音楽設計図を作成する。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
課題把握	1 リズム遊びをする。 2 「ぶんぶんぶん」の範唱を聴く。 	(分) ↑ 8	○ 楽曲のイメージをふくらませるために（未来予測）、「どんな生き物が出てきたかな」や「本物を見たことあるかな」と発問し画像を提示する。 ○ 子どもの思いや意図を可視化できるように、設計図にみんなの意見を書き込んでいく。
課題追求	3 本時の学習について話し合う。 たのしそうなはちのことをかんがえながらうたったり てをたたいたりしよう。	↓ ↓	○ 曲にあったリズムを探らせるために（目的整合）、いくつかのリズム絵譜の中から楽曲にあったリズムを考えさせる。
旋律把握	4 聴唱による旋律把握をし、歌に合わせてリズム打ちをする。 ＜前時までの学習から想起させるもの＞ なまえあそび：色々なリズムパターン じゃんけんぽん：○○○・のリズム 	↓ ↓	○ 8分音符の分割リズムの繰り返しに気付かせるために、分割のリズムを「たんたんたんうん」「たたたた」などの言葉に変えたものを提示する。
表現の工夫	 5 それぞれがもっているはちのイメージに合うように、歌い方を工夫する。 ・ たのしいかんじをだすためにこえのおおきさに きをつけてみよう。 ・ みんなでうたったほうが、はちがとんでいるかんじがでるよね。	↓ ↓ 27	○ 表現の高まりを吟味し、お互いの良さを認めあうために（コミュニケーション）、ペアやグループで、お互いの手を合わせてリズムうちをする。
相互発表・鑑賞	6 相互発表・鑑賞する。 ・ りずむよくうたえていたよ。 ・ たのしそうなかんじがでていたね。	↓ ↓	○ よりよい表現方法について考えを出させるために（参加）、音楽設計図を基に、最初に抱いた思いや意図と合っているか相互発表・鑑賞する。
まとめ	7 学習のまとめをする。 ・ はちのことをかんがえてうきよくにあわせてりずむをたたけ ・ ほかのきよくでも、りずむうちしてみたいな。	↓ ↓ 10	○ 聴く児童もイメージと表現の工夫のつながりを明確にするために（協同）、「はちの様子」と「表現の工夫とその理由」とを並べて板書する。 ○ 次の学習に意欲をもって取り組むために（つながり）、「他にいきものが出てくるような曲はないかな」と発問し、その曲についてどのリズムがふさわしいか考えさせる。